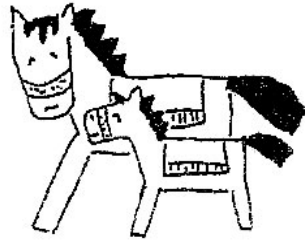


♪
お馬のかあさん
やさしいかあさん
子馬をみながら
ぽっくりぽっくり
あるく

おうまのおやこ

子育ても
あせらず待ちましょ
ポッキリ、ポッキリと

30年 9月 NO.286



〒 760-0044 香川県高松市御坊町2-2
高松保育園内地域子育て支援センター
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857
<http://oumanooyako.sakura.ne.jp/>

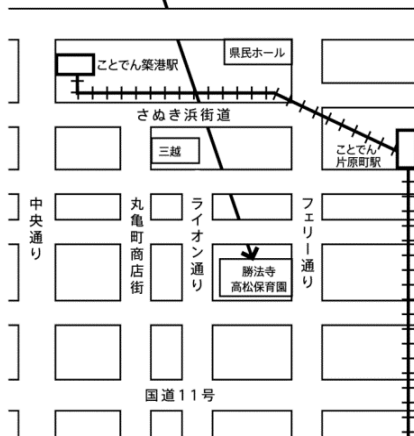
(厚生労働省・高松市委託事業)

～どなたでも～		9月の主な活動	～お気軽にどうぞ～
9月15日	土	体験保育 10:00～12:00	同じ年齢のクラスに入って いっしょにあそびましょう。
9月22日	土	体験保育 10:00～12:00	出産予定の方も子育て 体験においで下さい。
9月27日	木	香川みすゞさんの会 14:00～16:00	里見恵子氏(元児童相談所職員)に 最近の子育て事情についてお話 いただき、フリートークします。
9月28日	金	おはなしの会 10:00～12:00	「夏から秋へ!」をテーマに大型絵本や わらべ唄やペープサートもあります。
9月28日	金	健康・育児相談 11:00～12:00	園医師(小児科医)にゆっくり 相談できます。(予約要)
9月29日	土	絵本と小物づくり 14:00～16:00	遊びが広がる折り紙で動く花火又は 万華鏡をつくり、変わり絵折り紙 遊びを楽しみます。 (準備の都合上、予約要 9/25まで)

・火～土の9:00～18:00までは、園内開放して
いますので、親子でご来園下さい。
(但し、月・日曜・祭日は休み)

育児相談(月～土) 9:00～18:00
しつけや子育てについての悩み、保育園生活
入園・見学についての相談もどうぞ。

香川県高松市御坊町2-2
高松保育園 地域子育て支援センター



金子みすゞ童話全集
「空のかあさま・上」
JULA出版局

晴いあ
れつれ
たかは
日の
よ。

小竹
さの
な垣
根を
顔に
空を
み睨
てい
いろ
の瞳
(め)
のよ
うに。

草お
屋馬
が一
で通
った
村は
竹の
垣(か
き)。

秋いあ
のつれ
日かは
よの

小さな
朝顔



☆今月の内容—「高松医師会看護専門学校3年生の実習記録より」

ことは、6月25日から7月18日まで高松市医師会看護専門学校3年生40名（うち男子15名）が実習しました。ことりからすみれまでのクラス毎に感想や実習して分かったことなどを記録からご紹介していきましょう。



ことりぐみ（乳児）

離乳食・・・舌の前後運動で食物を咽頭へ送り嚥下することを覚えたり、食物の舌ざわりや味に慣れることから始める。その後、舌でつぶせる程度の食物になるが、この頃は生後7～8カ月頃となり歯が生えはじめ、口腔内の容量も増え、口唇の閉じがしっかりしている。生後9～11カ月頃には歯茎でつぶせるくらいのかたさの食物を食事のリズムを大切にしながら与えていく。離乳食は母乳や人工乳を飲む食事から、かむ食事に移る練習となり、また食事のリズムが確立することは生活のリズムを作り出すことができると考える。離乳食の時期に素材本来の味やうま味を覚えたり食事の楽しさを体験する時期と考える。

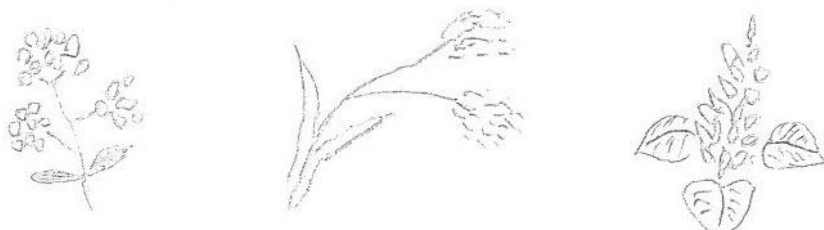
つくしぐみ（1歳児：9月17日～4月2日生）

コミュニケーションについて・・・言葉では、パパ、ママが言えるようになり、意味ある一語を話せるようになる時期である。幼児たちは「マンマ、ワンワン、バイバイ、出発」等単語中心であるが、一語文の発達がみられることから言語機能は問題なく経過していると考えられる。

知能機能では、他者がしている行為を見て模倣することができ、1歳半～2歳ごろでは、ある目的に対して行動し、自分の行為と結果を結びつけて考えることができる時期である。朝の体操では、先生のまねをしたり、曲をきくだけで踊ったりと知覚の発達も問題なく経過していると考えられる。

はとぐみ（1歳児：4月から9月16日生）

教科書や事前学習で学んだ一般的な発達よりすすんでいる子どもが多く、保育所の特性上、乳児の頃より集団生活する時間が長いため他の子どもと関



わることで社会性がつくためだと理解できた。おもちゃ等を取り合い泣くこともあったが自分の欲求が満たされず我慢することを覚えながら社会のルールを学ぶのだと分かった。両親共働きの家庭が増える中で子どもを安心して預けられ、かつ社会性や生活習慣の自立を支援する保育所の役割についても理解でき、年齢に応じた成長発達を知っていることも支援において重要だと分かった。

つぼみ赤ぐみ (2歳児)

片付けについて・・・おもちゃを使用して遊んでいる最中にも色々な物に興味を示し、それまで自分が使っていたおもちゃをその場にすてて、新しいおもちゃを使っていた。2歳児は様々な物に対して好奇心があり、集中力も短いため、このような行動は成長、発達の過程にて正常であると考えられる。声かけにより元の場所に片付けたりすることができていたので、適時声かけを行い、片付けが行えるように見守り援助していくことが必要であると考えられる。

つぼみ青ぐみ (2歳児)

食事・・・幼児期は生活習慣の基礎を確立する時期である。食欲のむらや偏食は幼児期にはよくみられるが食事時間を引きのばしたり不規則に何回も与えたりするのではなく、時間を決めて規則的に食事を与えることにより、食習慣を身につけて生活リズムを整えることを目指す。子どもの食事に対する関心を高めて楽しい雰囲気ですぐに食事がとれるように環境を整える。また、幼児は体がまだ小さく消化吸収力が未熟であるのに対して、エネルギー量や栄養素の必要性が多く、3回の食事だけでは摂取しきれないことが多い。間食を食事の一部と考えて、不足する栄養素や水分を補う必要がある。また楽しい雰囲気の中で、食事のマナーや食前の手洗いなどの清潔習慣を自然に身につけることも大切である。



さくらぐみ (3 歳児)

更衣の援助について・・・更衣を行う際にボタンをとめることと、外すことができない子どもが多くみられた。運動機能の発達が未熟であり、発達の方向性順序性から指先の発達は他の部位より遅いためであると考えられる。

自分の出来ない部分だけ手伝ってほしいという子と出来るがしようとしないう子どもがいた。その子どもができることは、自力で行えるよう声をかけたり、出来たらほめることが重要と考える。

ほしぐみ (4 歳児)

おはなしの会について・・・お話の会では、絵本を使用して本を読んでもらったが絵本に対しては興味を強く持っており、物語の展開がどのようになっていくのかを気にしながら静かに座って聞いている子が多かった。子どもの持っている興味を引き出して集中力を身につけるよい機会となっている。

工作について・・・クレヨンにて自分が楽しかったことを画用紙に描くというものだった。自己顕示欲やほめてほしいために大声で先生や学生を呼び自分の絵の説明を行っていた。絵を描くという構成遊びは、自分でテーマを決め、何を描くか、どの色を使うかなどの創造力を養っていくものであり、大人が必要以上に干渉することは、園児の自発性を妨げてしまう。幼児の創作意欲を伸ばしていくために絵が完成すればほめてあげることが必要である。

すみれぐみ (5 歳児)

保育園の中では最年長クラスになり、卒園も見えてくる 5 歳児は社会や集団のルールを理解し少しずつ大人へのステップを登っていく。この時期の子どもは主体的にものごとや人と関わり、自ら考えた上で発言や行動する力を身につけていくので、それに適した環境の提供、また援助を行うことが大切である。社会に適応するため、積極的に人と関わる機会を設け、子どもの考える姿を十分に認めてあげることも必要である。それと同時に子どもの判断の土台となるため、大人が集団のルールを重んじたり、物を大切に扱ったりと模範的な行動が求められるということを学んだ。